

採点の運用方針について

平成27年11月13日

「技術提案書の審査基準」について、以下のとおり運用する。

なお、提出される技術提案書の内容を踏まえ、必要がある場合は、本運用について見直しを行う。

- 「新国立競技場整備の基本的考え方」に沿ったスタジアムを整備することのできる事業者が選定されるよう、評価項目ごとの配点の幅を十分に活用し評価を実施する。
- 「事業費の縮減」のうち「事業費の縮減幅」については、概ね1割減の縮減を「B（優れている）」と評価し、縮減幅を連続的に評価する。
- 「工期短縮」のうち「工期の短さ」は、工期短縮の目標である平成32年1月末まで短縮した場合を「B（優れている）」と評価し、短縮幅を連続的に評価する。
- なお、各項目は原則として6段階の評価（A～F）としているが、委員が特に必要と考える場合は、委員の判断により、さらに詳細な区分による評価（A'、B'等）を認めることとする。

新国立競技場整備の基本的考え方

新国立競技場は、明治神宮外苑の歴史と伝統ある環境の中で、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下この節において、「東京大会」という。）のメインスタジアムとして建設される。

すべてのアスリートが最高の力を発揮し、世界中に感動を与え、東京大会を成功に導く場となり、そのよい遺産として、後世の人々に長く愛され活用される施設となることが望まれる。

そのため、

○ 人にやさしく、誰もが安心して集い、競技を楽しむことのできるスタジアム

- ・世界最高のユニバーサルデザインを導入した施設を目指す。
- ・競技者と観客とが一体感のある空間を作り出し、競技者の最高の力を引き出す。

○ 周辺環境と調和し、最先端の技術を結集し、我が国の気候・風土・伝統を現代的に表現するスタジアム

- ・豊かな緑とともに、スポーツクラスターの中心を作り出す。
- ・日本の伝統的文化を現代の技術によって新しい形として表現する。

○ 地域の防災に役立ち、地球全体の環境保存に貢献するスタジアム

- ・災害時の避難及び救援、地球全体の環境負荷の軽減に貢献する。

を施設整備のコンセプトとして、できる限りコストを抑制し、東京大会開催に間に合うように確実に完成させる。